

- 1 学習成果を機軸に据えた教育の質向上の取り組み
- 2 My KONAN の基本的な使い方ならびに Tips 共有
- 3 新任教員研修会
- 4 2025年度甲南大学FD委員会活動報告

1 学習成果を機軸に据えた教育の質向上の取り組み

甲南大学FD委員会委員長 高 龍秀

甲南大学は2026年度に自己点検・評価報告書をまとめ、2027年度に大学基準協会の認証評価を受審することになる。第4期となるこの認証評価では、学習成果を機軸に据えた内部質保証システムが整備されているか、さらに「教育の質を向上させるための組織的な取り組み」が実施されているかが問われることになる。つまり、各学科・学環の学位プログラムを通じて、学生がどのように学習成果を上げているのか、それを点検するためにどのように学習成果を測定し、点検・評価しているのか、さらに大学全体で学習成果という観点で教育の質を点検改善するシステムが機能しているのかが問われることになる。これに関連して、現在の本学での取り組みについていくつか指摘を行いたい。

第1に、本学で半期ごとに実施している授業改善アンケートを学習成果の分析に活用することである。2022年度から授業改善アンケートに「この授業の履修を通じて到達目標に示すどの力が身についたと思いますか?」という新しい質問項目を追加しているが、この質問への回答を分析し、教育課程改善につなげる必要がある。この質問の回答を学位プログラムのレベルで集計する事で、各学位プログラムが掲げている到達目標について、学生の実感としてどの程度身についたのかが分かり、プログラム全体で学生実感として身についたとの回答が多い到達目標と多くない到達目標が明らかになるなど、学科・学環レベルの教育課程改善にも活用できると考えられる。この授業改善アンケートは授業を履修した学生の意見を直接聞ける貴重なアンケートである。これらを学科・学環等の単位で集計するなどの方法で教育課程改善につなげる必要がある。

第2に、学生の立場からこの学習成果の可視化を考えると、

学生が学修ポートフォリオなどを通じて、半期ごとに自らの学習活動・学生生活の成果を振り返り、課題を考察するなどの取り組みを活性化することが必要である。学生は学修ポートフォリオにより、半期ごとに各学科・学環の到達目標に示された力がどの程度身についたかを示す学修度をレーダーチャートで確認することができる。2026年度からはレーダーチャートで示される学修度において、優秀な成績で多くの単位を修得した場合に100%に近づくように学習成果がより明確に可視化できるように変更されている。また、学生は学修ポートフォリオを通じて、ジェネリックスキル測定結果が1年から3年にどのように変化しているか、さらに本人が入力した取得資格、ボランティアやLOFTでの活動記録も確認することができる。さらに2026年度からは学修ポートフォリオ画面からプレ・ディプロマ・サプリメントにアクセスでき、正課外活動や留学実績、KONANサーティフィケート認定状況なども確認することができる。より多くの学生が、これら学修ポートフォリオなどを通じて、可視化された自らの学習成果を確認し、自らの成果と課題を考察し、学修ポートフォリオの最後のページにある「これまでの振り返り」及び「これからの目標」に記入するよう指導主任が促すことが重要になる。さらにゼミ・実験担当教員など指導主任教員がこれらのポートフォリオ画面やプレ・ディプロマ・サプリメントを共に見ながら、一緒に大学生活を振り返り、成果と課題について話し合うことも非常に教育効果が高い取り組みである。「学習成果の可視化」「教育の質向上」は、あくまで学生のための取り組みである。多くの教職員の協力で甲南大学の教育の質が大きく向上することを期待したい。

2 My KONAN の基本的な使い方ならびに Tips 共有

報告者：法学部 平野淳一、文学部 福島彰利、理工学部 片桐幸輔、経営学部 山口聖

殆どの教員にとってLMS(Learning Management System, 学習管理システム)は、授業を進めていくうえで欠かせないものとなっている。LMSを使うことで、教員は資料の配布・受講生の出席確認から課題の提示・提出に至るまで、一元的に管理をすることが可能となる。ただ、スマートフォン等の操作と同様、LMSを使いこなすためにはある程度の習熟が必要となる。また、大学によって採用しているLMSに違いがあることから、その大学で初めて授業を行う教員の多くはLMSの使い方を最初から学ばなくてはならない。

甲南大学では2007年度よりLMSとしてジャストシステム

が開発した「My KONAN」が用いられている。My KONANの基本的な操作方法および応用的な活用方法の習得を後押しするために、甲南大学では教員(とりわけ甲南大学に着任後間もない教員)向けのFDセミナーを例年行っている。今年度は、2025年5月1日に岡本キャンパス2号館2-24教室において、「My KONANの基本的な使い方とTips共有」と題した1時間のセミナーが開催された(当日参加者教員15名、職員3名)。参加者は各々ラップトップを持参し、My KONANにログインしながらセミナーを受講した。

まず、教務部の橋本拓明氏により、My KONANの基本的

な使い方についての説明がなされた。橋本氏によると、My KONAN は甲南大学の学生と教職員を繋ぎ、必要な情報にアクセスできる総合的なポータルサイトと位置付けられる。My KONANには、授業準備から、授業実施、授業実施後の課題等、学期末の成績登録までの各段階において各種の機能が用意されている。続いて、My KONANの授業支援機能であるクラスプロフィールについて画面操作をスクリーンに表示しながら説明がなされた。紹介されたのは、授業資料の公開、課題・テストの設定、授業中に簡単なアンケートを実施・集計できるクリッカーといったクラスプロフィールの基本的な機能である。また、これらの基本的な機能をまとめるコース学習についても説明があり、授業ごとに資料・課題・テストをグループ分けできることが示された。説明では、学生からみた画面も表示され、コース学習を用いることで、学生が資料の閲覧やテストや課題の提出をどの程度行ったのかがパーセンテージで示され、到達度で確認できることが紹介された。この他に、グループ学習の機能についても紹介があり、学生個人ではなく、グループ毎に課題等を設定できることが示された。最後に、学生が授業内容について質問することができる「学生からの質問_Q&A」の機能についても紹介がなされた。クラスプロフィールの機能以外に、教室予約やMy KONANの改善要望アンケートフォームについても紹介があった。

続いて、全学共通教育センターの千葉美保子准教授・篠田有史准教授より、「My KONAN の使い方 Tips」と題した、My KONANの応用的な活用方法に関して説明があった。最初に登壇した千葉准教授はMy KONANのコース管理機能をトピックとして取り上げ、そのメリットとして資料の閲覧や課題・テストの提出回数といった学習状況の管理が可能であることや、各授業回でやるのが教員・学生双方にとって明確になり分かりやすいことを指摘した。続いて、実際にMy KONAN上でコース管理機能を用いた画面が表示され、コース管理機能を用いることで個々の学生による資料の閲覧や課題の提出といった学習状況の確認が一元的に行えることが示された。次に、授業日より前に資料・課題を公開したい場合の設定方法として、コース管理機能の「目次管理」を使って公開日を手動で設定したり、授業回とは別に資料配布のため目次を追加したりする方法があることも示された。複数教員でコース管理機能を使う場合の注意点についても説明があり、「目次管理」の「担当教員共有設定」の設定を「参照を許可する」ではなく、「編集を許可する」にしておく必要があることが強調された。続いてコース管理機能にある課題提出機能・テスト機能・授業資料について説明があった。課題提出機能については、データで提出する場合は容量に制限があるため注意が必要なことや、提出した課題を学生相互で確認できる機能があることが示された。また、テスト機能については、テスト終了後に解答の解説を公開したい場合は、テスト期間、テスト結果の公開期間に注意をしないと、学生側が復習のためにテストを見るができないといった点に注意喚起がなされた。授業資料については、資料本体をアップロードする方法の他に、OneDriveに資料をアップして、リンクを貼ることで容量をあまり気にすることなく資料をアップできることが紹介された。この他に、授業資料をコピーする場合、課題提出期間・公開期間の設定に注意が必要な点や、クリッカーの活用方法についても説明があった。

最後に、篠田有史准教授から、学生支援と成績評定に関するMy KONANの機能について説明があった。まず、学生とのコミュニケーション機能として掲示板とQ&Aがあり、掲

甲南大学FD委員会主催

見つかる、きみのなかの無限大。
KONAN INFINITY

2025年5月1日(木) 15:00~16:00

FD・SDセミナー 「My KONAN の基本的な使い方 ならびにTips 共有」



示板がこちらから学生に連絡事項を伝達する場合に用いられるのに対し、Q&Aは学生からの質問・問い合わせに答える形でやり取りが行われることが紹介された。掲示板を使う際の注意点として、個別学生を指定する際には氏名ではなく学籍番号で検索する必要があることや、担当教員が複数の科目については共有したい教員も掲示対象に含める必要があることが挙げられた。Q&Aの注意点としては、基本的に質問の日時によってスレッド形式のQ&Aが並んでいるが、前に投稿されたQ&Aに付け加える形で新たな質問がなされた場合、そのQ&Aが上に来ないことが挙げられ、My KONANから通知メールで質問を確認し、Q&Aの中をページ内検索で探す必要があることが指摘された。また、課題に関する質問が来た際に、My KONANの仕様でQ&Aと課題のページが同時に開けないことから、Q&Aの内容を他のファイルにコピー＆ペーストする等の対応が必要になることも注意点として挙げられた。続いて課題の採点についても説明があった。課題の採点方法にはMy KONANでつける方式とエクセルなどの表計算ソフトでつける方式の二つがあり、学生数が少ないときはMy KONANでつけた方が良いが、学生数が多い場合は表計算ソフトを用いた方が効率的であるとの指摘がなされた。また、課題の最終集計については、評価割合の自動集計といった機能がMy KONANにはないため、表計算ソフトが必須になることが多くなるのではないかとの見通しが示された。そして、表計算ソフトでの集計を前提に、My KONAN上で入力した課題の点数をダウンロードする方法や課題の未提出者がいる場合の処理の仕方等の紹介がなされた。

今回のセミナーにおける3報告はいずれも分かりやすく、初めてMy KONANを使って授業をする教員に有益な情報が数多く提供されていたように思われる。個人的には、学生が提出した課題を学生相互が確認できる機能の紹介が非常に参考になった。これまでは学生の課題を全て一枚のファイルにまとめたうえで授業資料としてアップロードしていたが、この機能を使うことで作業時間を短縮できることが分かった。また、課題の集計・採点に関して未提出者の処理をどのように行うのかといった細かいながらも多くの教員が悩まされている問題への対処法が扱われていたのも非常に有益だったように思われる。

次年度も甲南大学で初めて授業を行う新任教員の多くがMy KONANを使用することになる。各教員がMy KONANの各種機能を活用し、授業をより充実させていくうえで、本セミナーのような機会は非常に有益と思われるため、次年度以降も継続されることを期待したい。

3 新任教員研修会

報告者：法学部 平野淳一、文学部 福島彰利、理工学部 片桐幸輔、経営学部 山口聖

多くの大学にとって、新任教員の研修は最も優先すべき課題の一つであろう。大学業界では教員の移籍や転出は珍しくないが、教育・研究に関する様々なシステムについて大学間での違いは大きい。そのため、可能な限り早期に新任教員が当該大学に順応し、教育と研究に全力で取り組めるような環境づくりが求められている。

甲南大学では、定期的な新任教員向けの研修や交流のためのイベント（新任教員研修・交流会）を実施している。新任教員研修・交流会では、新任教員同士や新任教員と先任の教員との間で甲南大学の教育環境や授業改善に関する情報交換を行うとともに、教員同士で学部を超えた繋がりが持てるよう後押しすることを目的としている。新任教員に甲南大学の教育環境に早く慣れてもらうと同時に、個々の新任教員が教育等に関する悩みをいつでも相談できるような環境づくりがその狙いとなっている。

今年度の新任教員研修・交流会は、2025年9月16日に岡本キャンパス5号館525教室において実施された。当日は新任教員17名と運営担当であるFD委員会（委員長：高龍秀教授）の教員7名、教育学習支援センタースタッフ3名の計27名が参加した。

まず、進行役の関和広教授（2025年度FD委員会委員／企画・運営分科会長）より研修会全体の流れと目的、効果について説明がなされた。続いて教育学習支援センターより、甲南大学における学習環境や学習支援制度について紹介が行われた。共同学習エリアと独習エリア、プレゼンテーションエリアを兼ね備えたサイバーライブラリや、学習支援制度であるLA（ラーニング・アシスタント）やTA（ティーチング・アシスタント）について詳しい説明がなされた。

全体説明の後は、3つのグループに分かれての活動に移った。各グループでは前任校を含めて教員としての勤務経験が最も豊富な教員が進行・まとめ役を担当し、新任教員よりも甲南大学での勤務年数が長いFD委員の教員がサポート役を担った。本稿執筆者の一人（平野）も、FD委員としてグループの一つに参加した。

グループワークの最初はアイスブレイクとしてペーパータワーを各班で行うこととなった。各グループとも工夫を凝らした方法でペーパータワーの構築に取り組んでいたが、作業の過程でお互いに言葉を交わすことで当初の緊張もほぐれたようである。ちなみに、執筆者が所属した班が最も高く安定したペーパータワーを築くことができた。

アイスブレイクの後は引き続き班ごとのグループディスカッションに移った。最初のテーマは「うまくいった授業の工夫を共有しよう!」と題して、各自が自分のこれまでの授業で行った工夫を出し合うというものだった。執筆者が所属した班では、My KONANのクリッカー機能を活用した授業内容のフィードバック、学習意欲を高めるための授業実施期間中の中間試験・コミュニケーションペーパーの点数伝達、ゼミ形式の授業

における対面式自己紹介の実施等の取り組みについて共有された。いずれも学生が授業を意欲的に受講できるよう工夫を凝らした取り組みであり、非常に参考になった。

2番目のテーマは「授業での困りごと（や苦手なこと）」であったが、授業内容にあまり関心がないと思われる学生への対応やグループワークの評価をどのように行うかといった悩みについて共有された。これらの悩みについては、その殆どが他の教員も抱いていたものであった。そのため、各自のこれまでの経験から、授業内容を学生の関心に寄せることや、グループワークの人数を制限すること等の解決策が示され、議論は大いに盛り上がった。

3番目のテーマは、「学生のAI活用・教員のAI活用」であったが、教員の多くが一部の学生による課題やレポート作成時のAIの不適切な使用という問題に直面していることが明らかになった。対策としてはAIを使っていることが事後的に分かるよう課題文に仕掛けをすることや、課題提出後の授業時にプレゼンも一緒にさせること等が挙げられたが、教員がまず生成AIについての理解を深める必要があることを実感した。

3番目のテーマについてのディスカッションが終わった後は、各グループで話し合われたテーマに関して全体に向けての共有が行われた。その後は全体でのフリーディスカッションに移り、研究費の使用ルールへの疑問やLA・TAの活用方法等について意見があがった。

今回の新任教員研修・交流会だが、様々な意味で大変有意義なものであったと考えられる。所属部局が違うことから、今回同じ班で活動したメンバー同士が日常的に接することはあまりないかもしれない。だが、新任教員研修・交流会で共通のテーマについて共に考え、議論を交わしたことで、別の機会でも席を同じくした時に互いに声をかけやすくなったのは間違いない。新任教員が授業や学務に関する困りごとがあった時に相談しやすい環境を整えるという目的は、一定程度達成されたと考えられる。

また、個人的にネットワーク作りと同じぐらい意義があったと思えるのは、所属学部以外の部局に能力が高く、教育に熱心な教員が数多くいることが分かったことである。他の班でも同様と思われるが、執筆者が参加した班では全ての教員が日々の授業に全力で取り組み、学生が少しでも授業に関心を持ち、それぞれの能力を高めることができるよう様々な工夫を行っていた。自分が所属する法学部以外にもこれほど優秀で学生教育に熱心な教員がいることに気づき、非常に頼もしく感じるとともに、自分も頑張らねばという気持ちになった。

この他にも、授業の改善点や悩みなどについて自分以外にも同じような問題に直面していることが分かったのも重要な成果と思われる。ディスカッションで具体的な解決方法について聞くことができただけでなく、悩んだり困ったりしているのは自分だけではないのだと思うことができ、自分のこれまでの取り組みについても前向きに考えることができた。

以上のように、今回の新任教員研修・交流会は、新任教員はもちろん、それ以外の教員にとっても非常に有益なものであったと考えられる。企画に携わったFD委員会企画・運営分科会のメンバーおよび教育学習支援センターの職員に対して心より敬意を表したい。

次年度以降の新任教員研修会に向けての改善・見直しの作業は別途行われると考えられるが、参加者として気づいた点



について簡単に述べたい。まず、最後のフリーディスカッションでは主に研究費の使い勝手に関して改善を求める声が多く上がった。挙げられた疑問点・問題点はいずれも的確なもので、早急に改善を要すべきものと考えられる。しかしながら、本企画の主眼が教育や授業改善にあることを考えると、本学の学習環境や学習支援制度に関するトピックにより多くの時間を割いても良かったように思われる。

また、グループディスカッションで話し合われた3つのテーマは、いずれも本学におけるFD活動をはじめとした

様々な活動において扱われてきたもので、これまでの取り組みについてかなりの蓄積があるものといえる。最後のまとめの段階で、参加者に対して過去の活動の成果を基にした情報提供があれば、更に実りのある研修となるように思われる。

上記のような課題はあるものの、新任教員研修・交流会の意義は大きく、次年度以降も継続されるべきと考えられる。今後も新任教員研修・交流会が、本学で新たに教育研究活動をスタートする新任教員を後押しするような場であり続けることを期待したい。

4 2025年度甲南大学FD委員会活動報告(2025年4月~2025年12月)

- | | | | |
|-----------|---------------|------------|---------------|
| ○4/2 | 新任教職員ガイダンス | ○10/3 | 第2回FD委員会 |
| ○5/9 | 第1回FD委員会 | ○12/12 | 第3回FD委員会 |
| ○6/2~6/13 | 授業参観 | ○12/17~1/9 | 後期授業改善アンケート実施 |
| ○7/9~7/22 | 前期授業改善アンケート実施 | | |

《学部・センター・研究科の主なFD活動報告(2025年4月~2025年12月)》

〈文学部〉

- 4/23 「横断演習II」準備：テーマ決定
- 6/24 「横断演習II」準備：各学科内容検討
- 11/20 5学科参加講義のシラバス検討
- 12/10 授業改善の工夫と仕掛けを学ぶ

〈理工学部〉

- 4/11 化学物質安全講習会
- 4/17 高圧ガス安全講習会
- 6/3~4 教員相互の授業参観
- 9/2 学生を交えた意見交換会
- 9/2 全教員参加によるFD活動

〈自然科学研究科〉

該当期間中の実施なし

〈経済学部〉

- 5/14 コンプライアンス研究
- 9/10 「経済学部2024年度ベストレクチャー」原案策定
- 10/8 「経済学部2023年度ベストレクチャー」選出
- 10/29 2026年度授業改善アンケートに関する意見集約

〈法学部〉

- 5/19~30 前期法学部中間授業アンケート
- 7/8 法学部FD懇談会
- 11/4~17 後期法学部中間授業アンケート
- 12/9 法学部FD懇談会

〈経営学部〉

- 6/6~13 授業参観
- 12/9 2025年度前期授業改善アンケート集計結果について

〈知能情報学部〉

- 5/20 成績不振者に対する特別指導の報告
- 6/3 教員による相互授業参観
- 9/19 授業改善アンケート結果の活用

〈マネジメント創造学部〉

- 7/16 「教育と仕事の変化」をテーマとしたワークショップ
- 9/24 授業改善アンケートを用いた授業改善案の検討について

〈フロンティアサイエンス学部・研究科〉

- 4/3 安全講習会(高圧ガス安全講習、試薬安全講習、研究倫理講習)
- 6/3 SDS講習会
- 6/27 スマドリセミナー

〈グローバル教養学環〉

- 4/15~他 計18回 STAGE演習内容の検討および学生への指導
- 5/27 STAGEにおける授業改善アンケート結果
- 9/19 BEVI分析結果を活用した学生指導について

〈全学共通教育センター〉

- 4/22~他 計14回 基礎共通カリキュラムについて
- 4/8~他 計20回 スポーツ・健康カリキュラム委員会
- 7/8 国際言語カリキュラム委員会
- 9/9 キャリア科目情報交換会
- 9/16 FD活動

〈教職教育センター〉

- 5/19 授業改善を図るための検討会
- 10/6 授業改善を図るための検討会

〈公認心理師養成センター〉

該当期間中の実施なし

さらに詳しい情報・報告はホームページへ！

甲南大学トップ ▶ 甲南大学について ▶ 甲南大学のFDへの取り組み

問い合わせ先

FD委員会ではFD活動やFDニュースについてご意見・ご要望を受け付けています。
全学教育推進機構 教育学習支援センター TEL078-386-4312(内線5851) MAIL lucks@adm.konan-u.ac.jp